

「彼はキエフに向かうと・・・」 不明兵士を探すロシア人、電話する先はウクライナ当局

2022.03.09 Wed posted at 20:30 JST

不明兵士を探すロシア人、電話する先はウクライナ当局

ウクライナ・キエフ（CNN）「お騒がせして申し訳ありません。兄弟のことで電話しております」

「私の夫について何か情報はありますか」

「もしもし、安否確認にはこちらのホットラインに電話すればよろしいでしょうか」

ウクライナ政府が運営するホットラインに寄せられた電話の音声の一部だ。ロシアとウクライナの戦争に終わりが見えない中、父母や妻、きょうだいなどは必死の思いで愛する人を探している。

だが、電話の向こうの震える声を探しているのはウクライナ人ではなく、ロシア人兵士の情報だ。

音声記録はホットラインを運営するウクライナ当局者がCNNに独占提供した。相談者の声ににじむ絶望と不安からは、ロシア政府が戦争に関する通信をいかに厳しく統制しているかが浮かび上がる。

一連の録音では、多くのロシア兵が自分たちの予定や派遣理由を知らない様子であることがうかがえる。ロシア兵が家族との通信を禁じられているとの報道を裏付ける内容でもある。

ある妻は涙ながらに、悲痛な声で夫のことを尋ねている。

オペレーター ご主人から最後に連絡があったのはいつですか。

発信者 国境を越えた2月23日です。

オペレーター どこへ行くか言っていましたか。

発信者 彼はキエフに向かうと言っていました。

オペレーター 理由については何か言っていましたか。

発信者 いえ、他には何も言っていませんでした。

インターネット上では2月24日の侵攻開始以降、ウクライナの民間人や軍人がロシア兵に自宅への電話や、両親との通話を許可する動画が出回っている。

「生きてウクライナから戻る」と名付けられたホットラインはウクライナ内務省が設置した。同省はこの取り組みについて、人道目的とプロパガンダの道具としての両面があることを認めている。

ホットラインの運営を担うクリスティナ氏（仮名）はCNNに対し、安全上の理由から身元を報じないよう求めた。同氏は心理学者として訓練を受けた経歴を持つ。

「彼はキエフに向かうと・・・」 不明兵士を探すロシア人、電話する先はウクライナ当局

2022.03.09 Wed posted at 20:30 JST



ホットラインにかかってくる電話の対応に当たるクリスティナ氏/Christian Streib/CNN

クリスティナ氏はウクライナ首都キエフの非公開の場所から、ホットラインの目的について説明した。

「第1に、我々の目的は、だまされて行く先も理由も分からず我が国に来たロシア兵が親族を見つけるのを助けることにある。第2の目的は、この戦争全体を止める手助けをすることだ」

開戦当初に設置されて以降、ホットラインが鳴りやんだことはなく、2月24日以降に6000件以上の電話があったという。電話の発信地はロシア極東のウラジオストクからウクライナ国境に近いロストフ・ナ・ドヌまで多岐にわたる。

履歴からは一部の電話がロシア国外からかけられたことも判明。欧州全域のほか、バージニア、ニューヨーク、フロリダ各州を含む米国内からも電話があった。

CNNは米国から電話をかけた3人に話を聞き、実際にホットラインを利用したか、またウクライナ内務省から肉親に関する情報が得られたかを確認した。

取材に応じたバージニア州のマラットさんは、ウクライナ政府とつながりのあるテレグラムの安否確認用チャンネル上で、いとこの身分証の写真を目にしたと明かした。

このチャンネルはウクライナでの戦闘中に拘束されるか死傷したロシア人の情報に特化したもので、パスポートの写真や氏名、認識票、部隊の情報を掲載している。

マラットさんはいとこの運命について率直な認識を語った。「彼が戦死した可能性が高いことは分かっているが、遺体が見つかるかすればどこなのか情報を探している。それにもしかしたら、彼は生きているかもしれない」

ロシアのウファに住む家族はマラットさんに対し、息子を探せばロシア当局に報復される恐れがあるため、ホットラインに電話してほしいと依頼した。

「ロシアでは誰もがおびえているので、家族は誰からも連絡を受けないようにしている。法執行当局による追跡を恐れ、皆話すのを怖がっている状況だ」（マラットさん）

ますます明らかになりつつあるのは、ロシアのプーチン大統領が戦争に関する国内の情報を統制していることだ。死傷者数に関する発表はこれまで、498人が死亡したとするロシア国防省の無味乾燥な声明のみだ。

フロリダ州でCNNの取材を受けたもう1人の相談者、マリーナさんは、自分のおばはロシア国防省から何も情報を提供されていないと語る。

「家族は彼のことを探そうとしたが、誰からも回答がない」とマリーナさん。そこで、ウクライナのホットラインに電話することに唯一の望みを託したが、現時点でいところに関する情報は得られていない。

ホットラインを担当する当局者らによると、電話をかけてきた人の大半は、息子や夫から予備役の訓練や軍事演習に派遣されると伝えられていた。侵攻開始直前の2月22日か23日に連絡が途絶えたケースが多いという。

キエフでホットラインの責任者を務めるクリスティナ氏は、受けた電話のことが頭から離れないと話す。

「ある父親から電話があった。彼の話では『子どもたちは消耗品、肉の盾として使われている。政治家や有力者がゲームに興じて自分たちの問題解決を図る一方で、子どもたちは死んでいく。誰かがそれで金もうけをしたいから、あるいは自身の野心を満たして世界の王になりたいからだ』と」

「彼はキエフに向かうと・・・」 不明兵士を探すロシア人、電話する先はウクライナ当局

2022.03.09 Wed posted at 20:30 JST



テレグラムの安否確認用チャンネルに掲載されたあるロシア人兵士の身分証/@rf200_now

相談者のこのような見方は例外ではない。CNNに提供された録音のひとつでは、取り乱した様子の妻が泣きながら電話をかけてきた。

ロシア兵の妻である相談者 「もしもし。安否確認の電話はこちらにすればよろしいでしょうか」

オペレーター 「はい。その方の個人情報をお伝え下さい」

(女性が涙声で男性の名前と生年月日をつぶやく)

オペレーター 「ご主人との連絡が途絶えたのはいつですか」

相談者 「だいぶ前です」

オペレーター 「だいぶ前とはどういう意味でしょうか。1カ月前、それとも2カ月前ですか」

相談者 「2 カ月以上前です」

ホットラインの説明と個人情報についてのやり取りがあった後、妻はこう続けた。

相談者 「あなたはウクライナ出身ですか」

オペレーター 「はい、ウクライナ出身です」

相談者 「申し訳ない気持ちです。私たちの責任ではないのです……。私は怖いです。彼らがこれを選んだわけではありません」

クリスティナ氏はまた、夫となる人の行方を探す婚約者からも電話を受け取った。「彼女が許しを求めていたのが印象的だった。彼女は繰り返し、『どうか許して下さい。私たちはあなた方を攻撃したくはなかったのです。これは私たちの戦争ではありません。私たちはこんなことしたくありませんでした』と語っていた」

しかし、このホットラインは単に答えを提供する窓口ではなく、ロシア人の反戦感情を高めるためのプロパガンダの道具でもある。戦況は日に日に血みどろの長期戦の様相を呈している。

「この状況がどれだけ続くかは考えないようにしている」とクリスティナ氏。「早く終わってくれることを願うばかりだ。ウクライナで起きていることの真実をより多くの人に伝えることができれば、街頭で抗議の声を上げ、流血を止めるよう求める人も増えるだろう」

空挺（くうてい）部隊の兄弟を探す男性からの電話には、現状が端的に示されていた。「頑張っ
て。文明世界全体があなた方の味方だ。私たちはあなた方を信じている」

これらの電話が何かを示しているとすれば、それはこの戦争がロシアの戦争ではなく、プーチン氏の戦争だということだろう。